

2025年6月期 第2四半期

決算補足説明資料

2025年2月14日

株式会社オカムラ食品工業 (2938)



I. 2025年6月期 第2四半期実績

II. 2025年6月期 通期計画

III. 参考資料

I . 2025年6月期 第2四半期実績



- Q2実績サマリー
- 成長のためのKPI
- 連結業績サマリー
- セグメント情報サマリー
- セグメント別売上高増減
- セグメント別営業利益増減
- 要因別セグメント利益増減（養殖事業）
- 要因別セグメント利益増減（国内加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外加工事業）
- 要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）
- 貸借対照表 増減サマリー
- 養殖設備の状況（国内・稼働中）
- 養殖設備の状況（国内・建設中）

Q2実績サマリー

成長のためのKPI

国内養殖量

2025年水揚げ計画3,500トン（前年比800トン増）

- 現在は、25年4月～7月の水揚げに向けて養殖中。現時点において特段の異常はなし。

海外卸売事業売上高

Q2売上53億円（予算進捗率48%）

- 通期売上計画は111億円。現時点においては、概ね計画通り。

Q2業績

連結売上高

前年同期比 + 17億円

- アトランティックサーモンのハラス原料の世界的な供給減の影響が大きく、Q1同様、海外加工事業売上高は前Q2を下回ったものの、その他の事業は順調に推移。
- 全体としては、通期見込みに対して順調に推移。

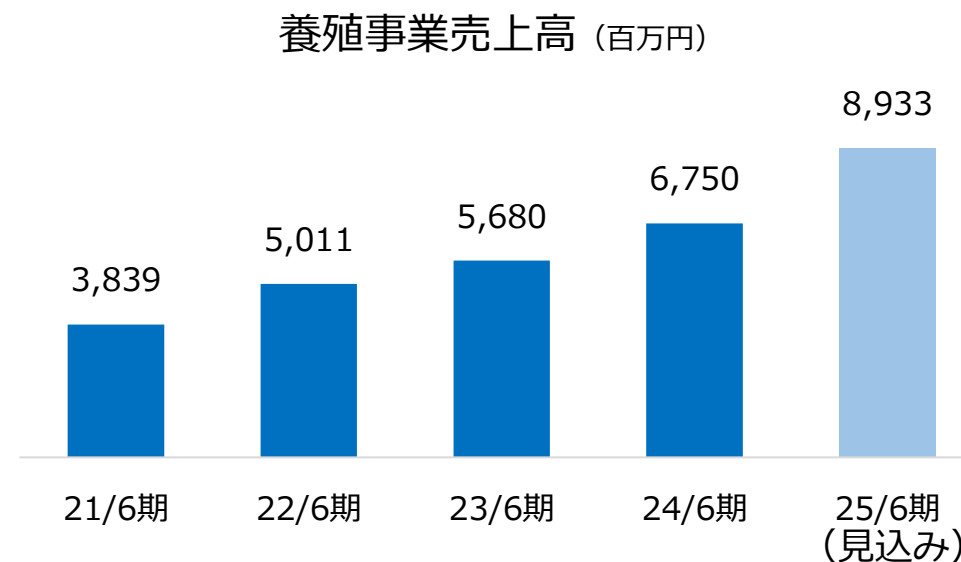
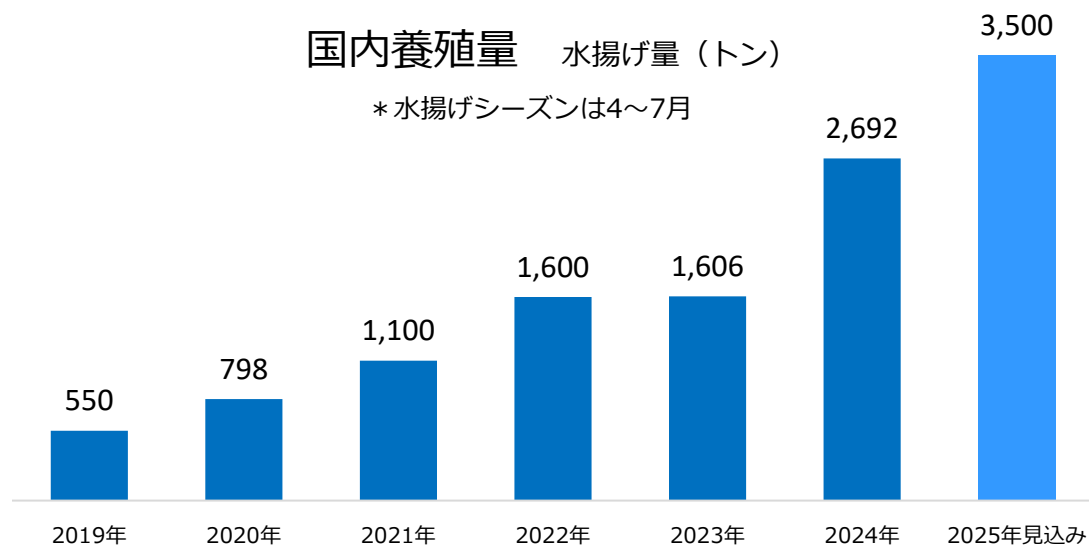
連結営業利益

前年同期比 + 4億円

- 連結売上高が増加し、営業利益も4億円増加。
- 営業利益も全体としては通期見込みに対して順調に推移。

成長のためのKPI (1) 国内養殖量の拡大

当社グループの成長ドライバーの一つは国内養殖量の拡大。2025年シーズン（2025年4～7月水揚げ）の国内養殖量は3,500トン（2024年シーズン比8百トン増）を計画。昨年末の馴致（※）も予定通り完了。



今シーズン 水揚げ量 主な増産要因

- 2022年8月の被災によって使用不能となっていた中間養殖施設（青森県深浦町）の復旧
- 社外の養殖施設の利用



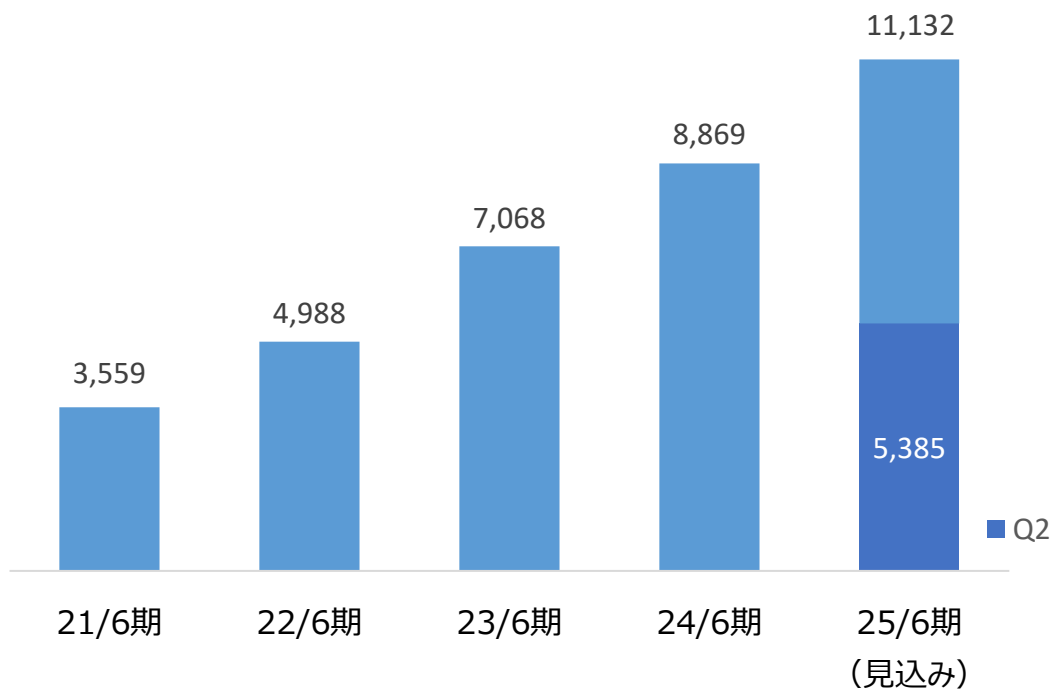
*デンマーク子会社（養殖事業）の売上高も含む

※馴致とは、淡水養殖から海水養殖に移る段階で、淡水から徐々に塩分濃度をあげて海水の塩分濃度に馴れさせていく作業を言います。

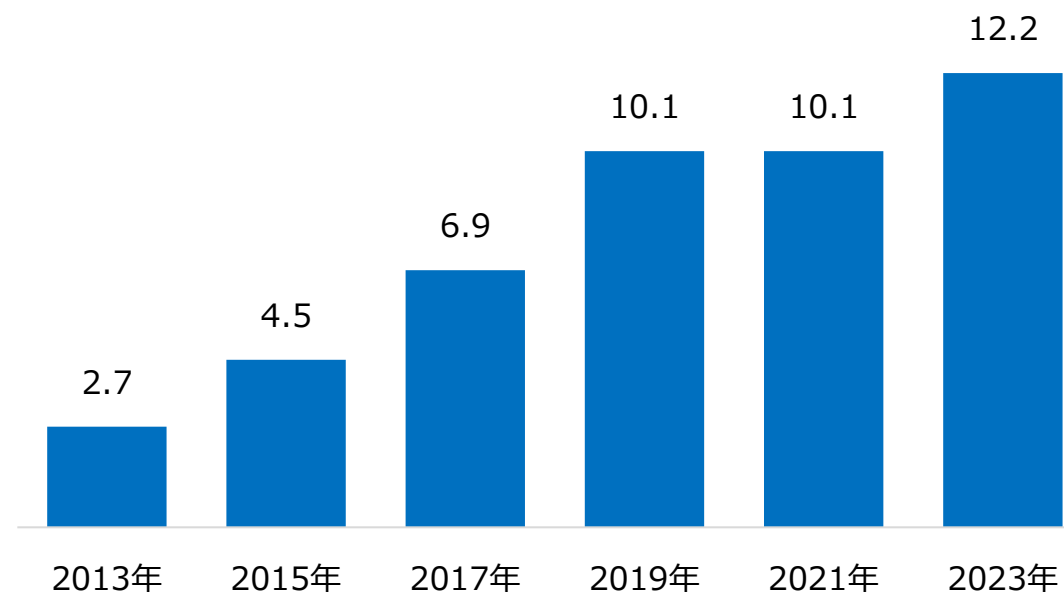
成長のためのKPI (2) 海外卸売事業売上の拡大

もう一つの成長ドライバーである海外卸売事業は、アジアにおける日本食市場の拡大を背景に順調に推移。当Q2時点での売上高は5,385百万円（前年同期比1,247百万円増、為替換算影響含む）となった。

海外卸売事業売上高（百万円）



アジアにおける日本食レストランの概数（万店）



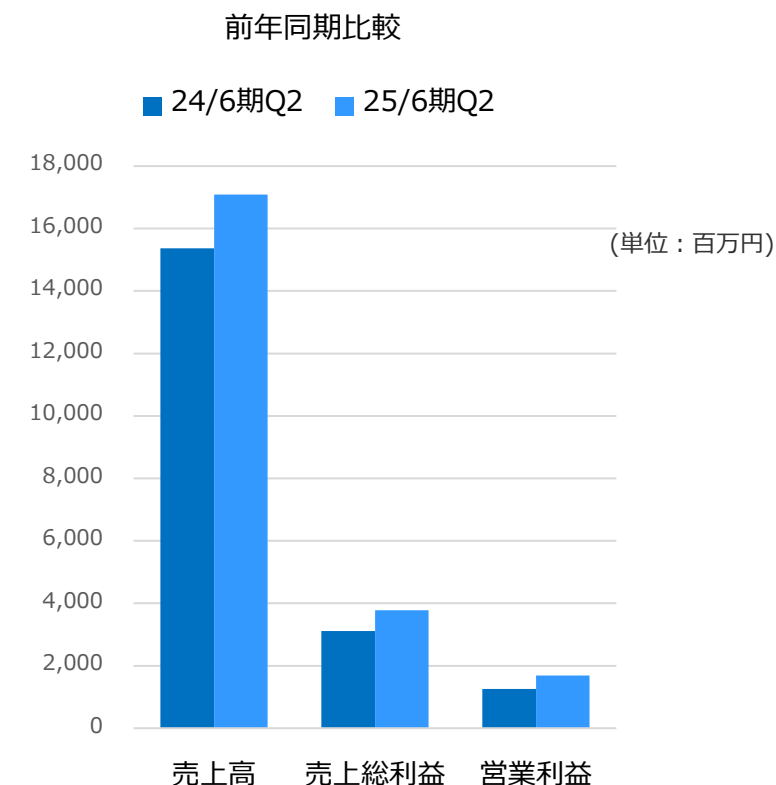
(出所) 「海外における日本食レストランの概数（令和5年）」令和5年10月13日農林水産省
 「海外における日本食レストランの数（令和3年）」令和3年9月30日農林水産省
 「農林水産省における日本食・食文化の魅力発信による日本産品海外需要拡大事業の拡大の紹介」平成30年9月農林水産省
 「日本食・食文化の海外普及について」平成25年6月農林水産省

連結業績サマリー①

売上高は前期同期比17億円増、営業利益は前期同期比4億円増。全体としては堅調に推移。
経常利益は前年同期比3億円増。外貨建債権等の為替差損1.3億円（前Q2は0.6億円の為替差益）あり。

(単位：百万円)

	24/6期 Q2	25/6期Q2		FY25通期計画	
		金額	対前年同期比 増減率	金額	対前年 増減率
売上高	15,366	17,084	11.2%	36,119	10.6%
売上総利益	3,116	3,781	21.3%		
営業利益	1,254	1,692	34.8%	3,212	26.1%
経常利益	1,325	1,634	23.3%	2,949	0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	895	1,114	24.5%	2,093	6.4%

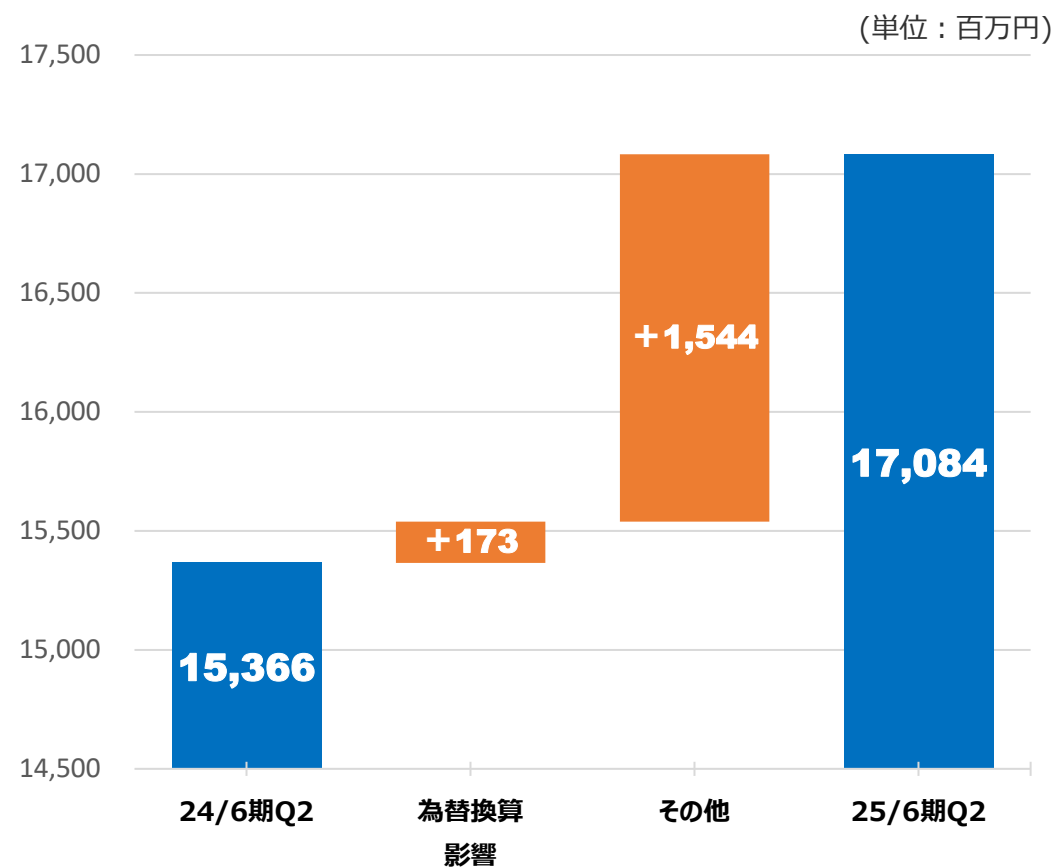


連結業績サマリー②

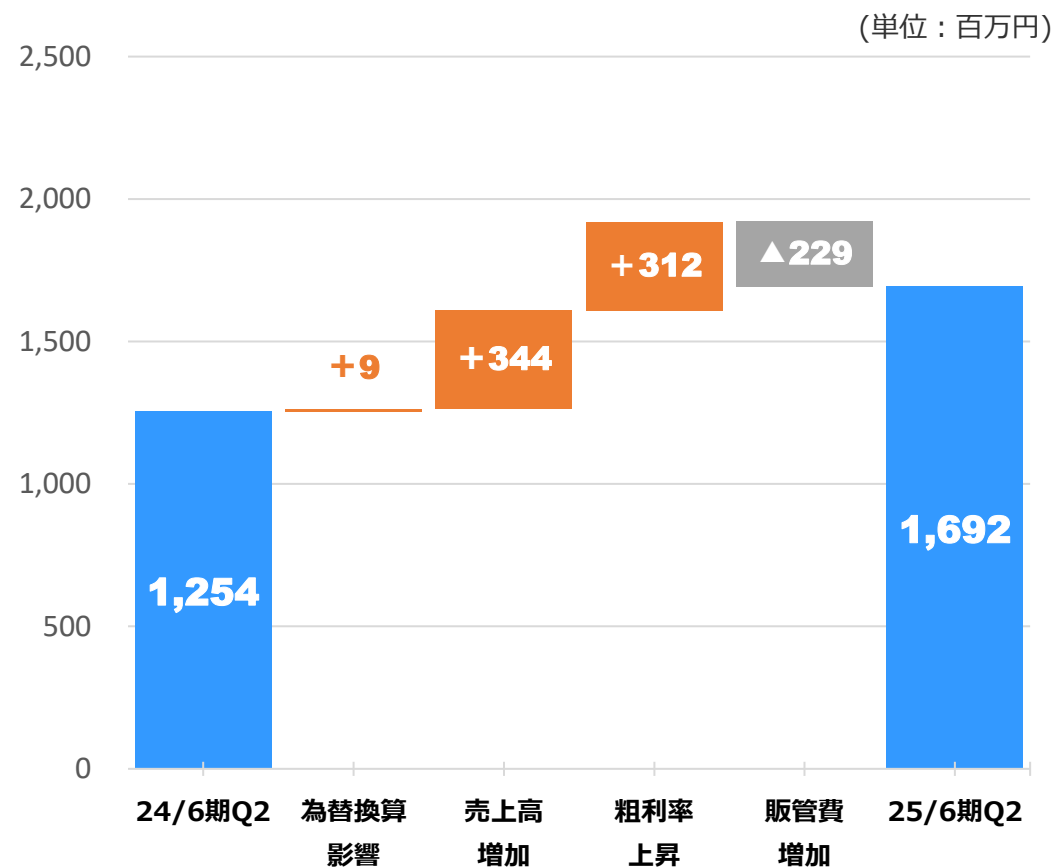
売上高は、円安による為替換算影響を除いて1,544百万円増加。

営業利益は、売上増による増益効果と粗利率の上昇により、437百万円増加。

連結売上高 増減要因



営業利益 増減要因



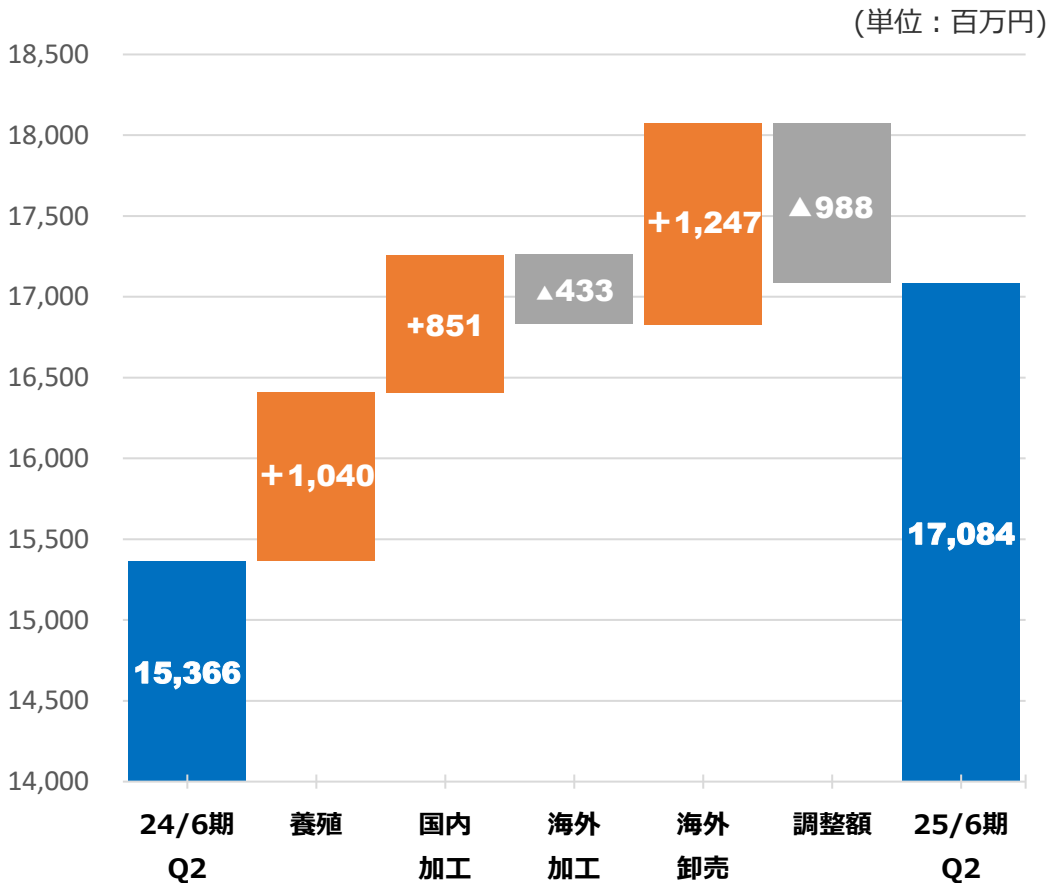
セグメント情報サマリー

(単位：百万円)

	24/6期Q2	25/6期Q2	前年同期比	前年同期比 増減率(%)	増減の内訳		
					為替差	実質	増減率(%)
売上高	15,366	17,084	1,717	11.2	173	1,544	10.1
養殖	1,436	2,477	1,040	72.4	12	1,028	71.6
国内加工	4,839	5,691	851	17.6	—	851	17.6
海外加工	7,753	7,319	△433	-5.6	△1	△431	△5.6
海外卸売	4,137	5,385	1,247	30.2	163	1,084	26.2
調整額	△2,801	△3,790	△988	—	—	△988	—
セグメント利益	1,254	1,692	437	34.8	9	427	34.1
養殖	391	475	83	21.2	3	79	20.3
国内加工	690	784	93	13.5	—	93	13.5
海外加工	482	579	96	20.1	△0	97	20.2
海外卸売	122	267	145	118.9	6	138	113.4
調整額	△433	△414	18	—	—	18	—

セグメント別売上高増減

セグメント別売上高増減



増減補足説明

養殖

前期比+1,040

- 国内外において、前期からの繰越在庫の消化が順調に推移したことによるもの。国内の繰越在庫増は養殖量拡大に伴うもの。海外の繰越在庫増は顧客在庫状況などの影響で当期へ販売が繰り越されたもの。

国内加工

前期比+851

- 国内魚卵供給減により魚卵相場上昇。相対的に安価であった当社のいくらの販売が伸びて売上増加。

海外加工

前期比△433

- 主要商材であるアトランティックサーモンハラスの世界的な原料供給減により、当該商材の売上が大幅減。

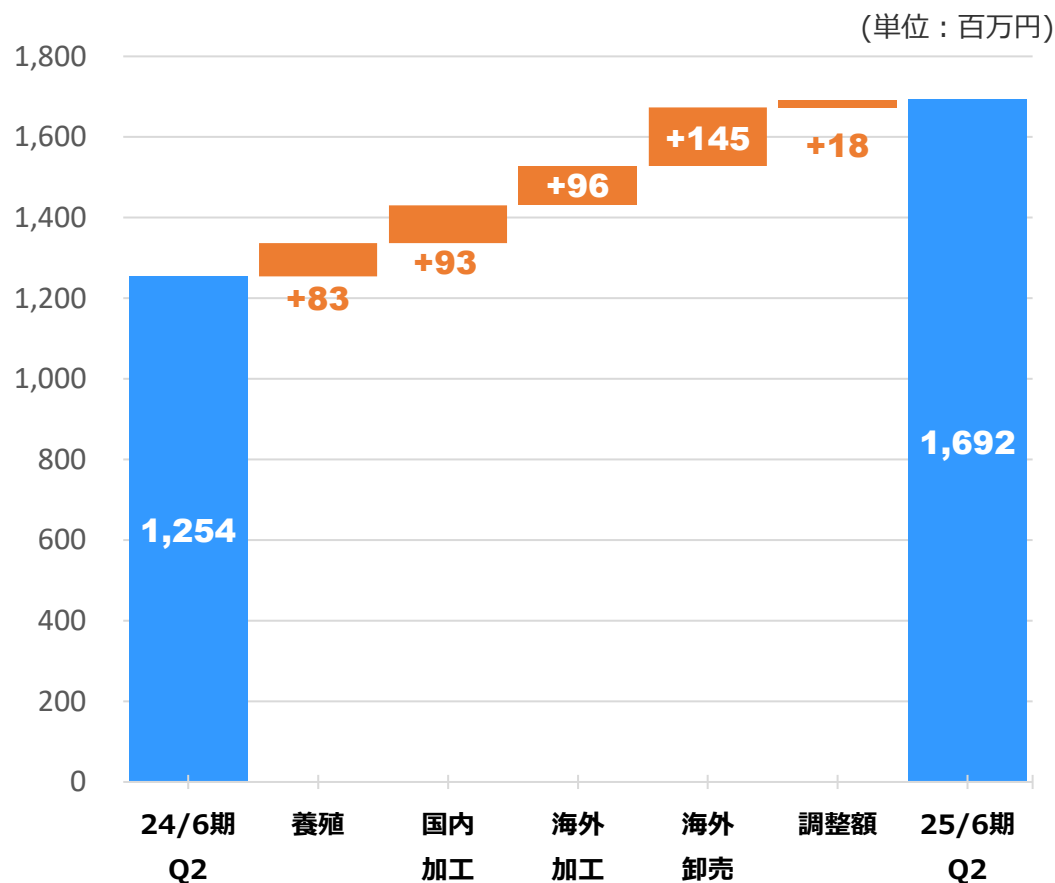
海外卸売

前期比+1,247

- 引き続き日本食レストランの出店増が継続するなど市場環境は良好。従来の上増傾向が継続。

セグメント別営業利益増減

セグメント別営業利益増減



増減補足説明

養殖

前期比+83

- 国内で生鮮販売や繰越冷凍在庫の消化が順調に進んだことによる影響。

国内加工

前期比+93

- 国内魚卵供給減により魚卵相場上昇。相対的に安価であった当社のいくらの販売が伸びて売上、利益増加。

海外加工

前期比+96

- ハラス、その他魚種の販売価格上昇の影響。

海外卸売

前期比+145

- 売上増に加え、円安効果等により利益率上昇。

調整額

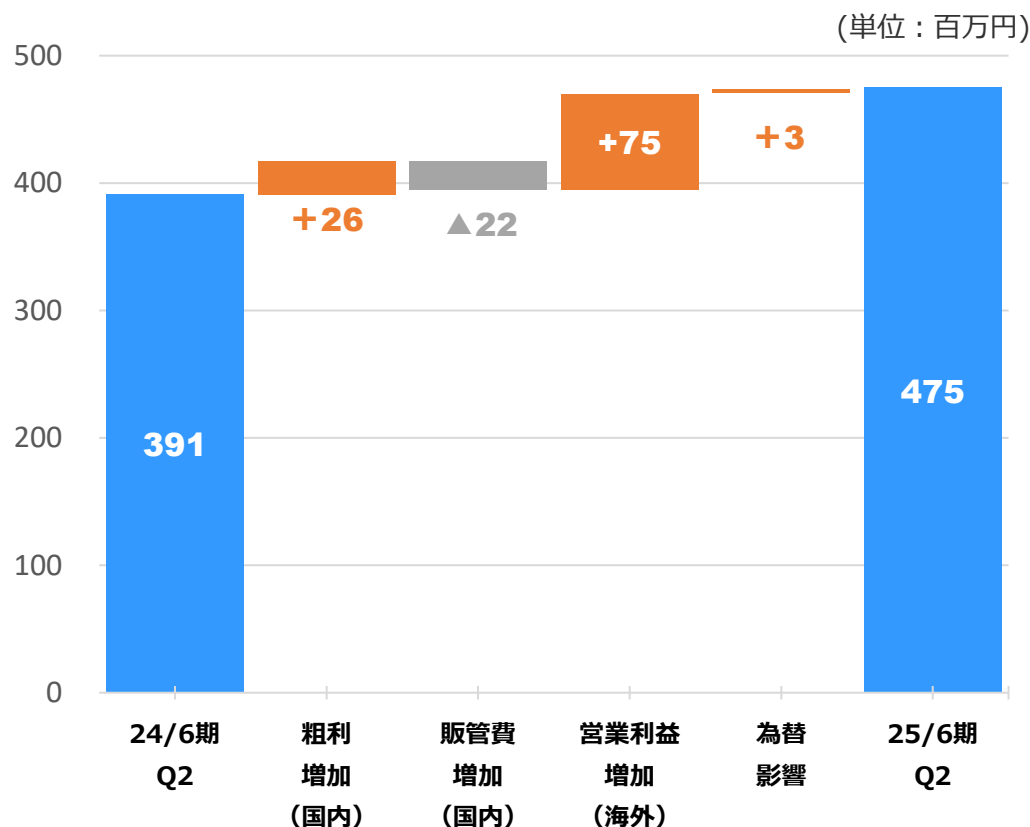
前期比+18

- 主に連結上の在庫未実現損益の増減。

要因別セグメント利益増減（養殖事業）

魚卵市況の供給不足から海外養殖事業の魚卵の販売単価見通しが改善し、営業利益が増加。

セグメント利益増減



増減補足説明

粗利増加（国内）による影響

前期比+26

- 7月まで水揚げが実施されたことによる生鮮販売数量の増加及び前期繰越冷凍在庫の販売が順調に推移していることに伴い売上及び粗利増加

販管費増加（国内）による影響

前期比△22

- 販売数量増加に伴う運賃等の増加の影響

営業利益増加（海外）による影響

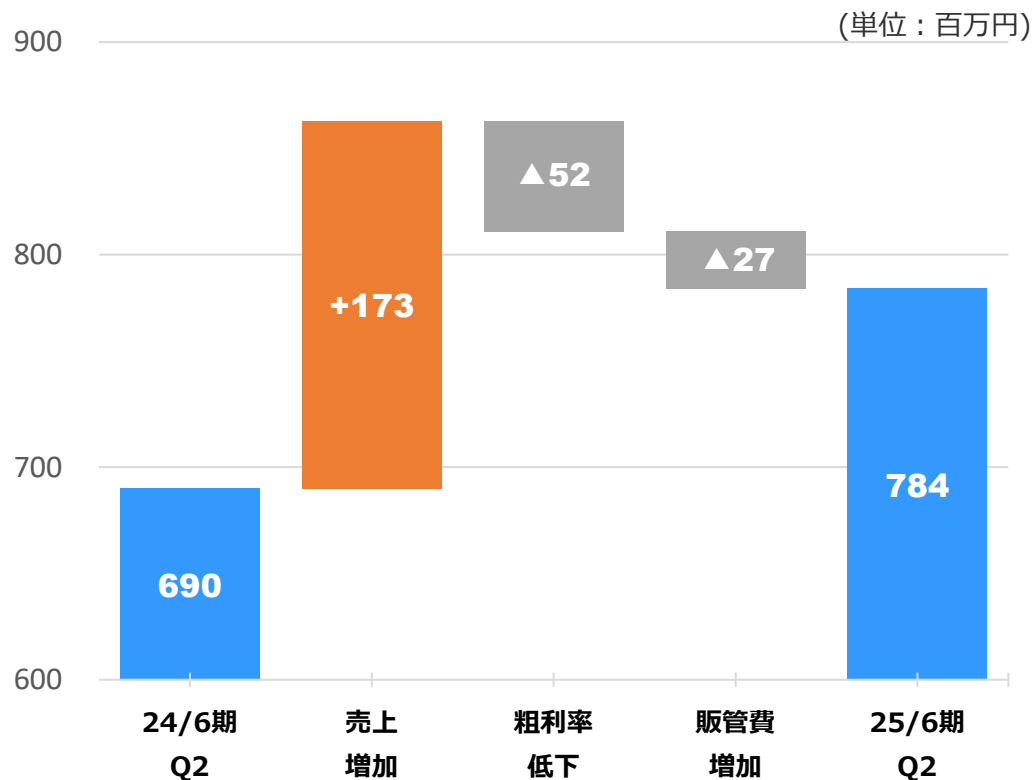
前期比+75

- 前期Q2に比べて販売価格が上昇し営業利益増加。前期Q2は魚卵市況の影響で当期に比べて魚卵販売単価が低かった。
- 一方、Q2での営業利益率は前期比で低下。国内養殖事業の拡大で売上が大きく増加していくが、Q2までの利益の大部分を占める海外加工事業の利益（生物資産の公正価値評価）は大きくは変わらないため。

要因別セグメント利益増減（国内加工事業）

原料単価上昇により粗利率は低下したものの、売上増により前Q2から回復。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+173

- 国内魚卵供給減により魚卵相場上昇。相対的に安価であった当社のいくらの販売が伸びて売上増加。

粗利率低下による影響

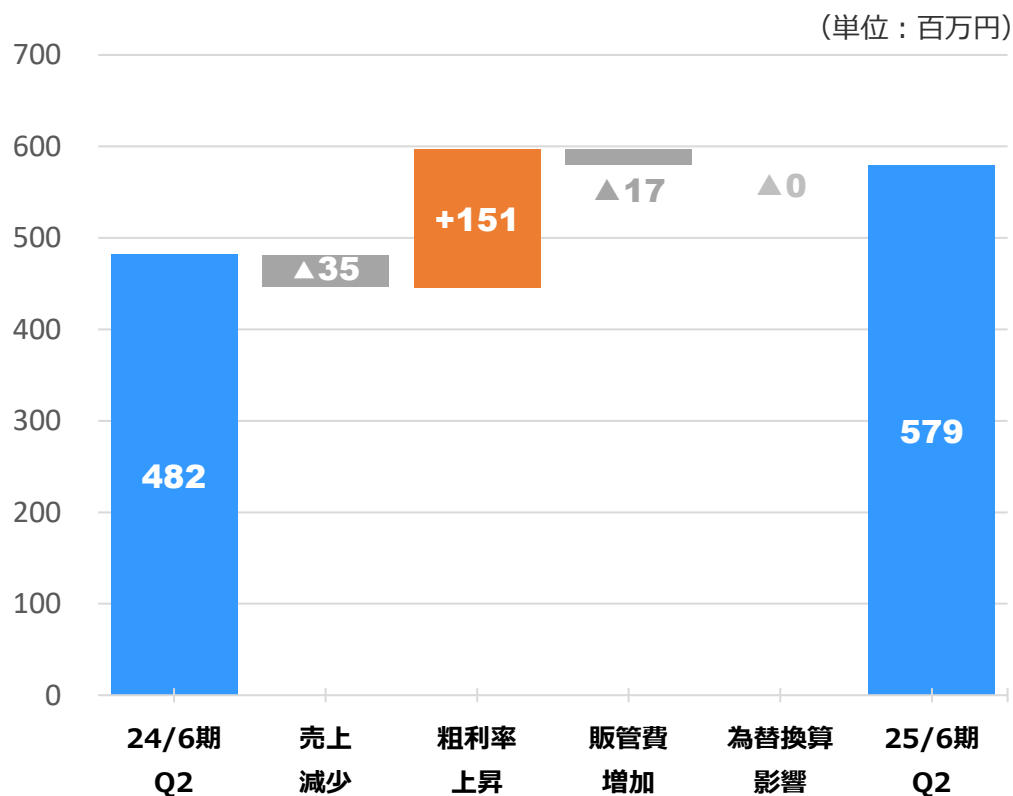
前期比△52

- 魚卵原料供給減により当期新物の原料単価が大きく上昇し、販売価格値上げするも利益率は低下。

要因別セグメント利益増減（海外加工事業）

ハラス原料の不足により国内外でハラスの加工販売が減少、一方で原料不足から販売価格は上昇。その結果、セグメント利益は96百万円増加。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高減少による影響

前期比△35

- 主要商材であるアトランティックサーモンのハラスの原料供給減が継続、当該商材の売上が国内外で減少。他の魚種商材も含め原料調達を進めている状況。

粗利率上昇による影響

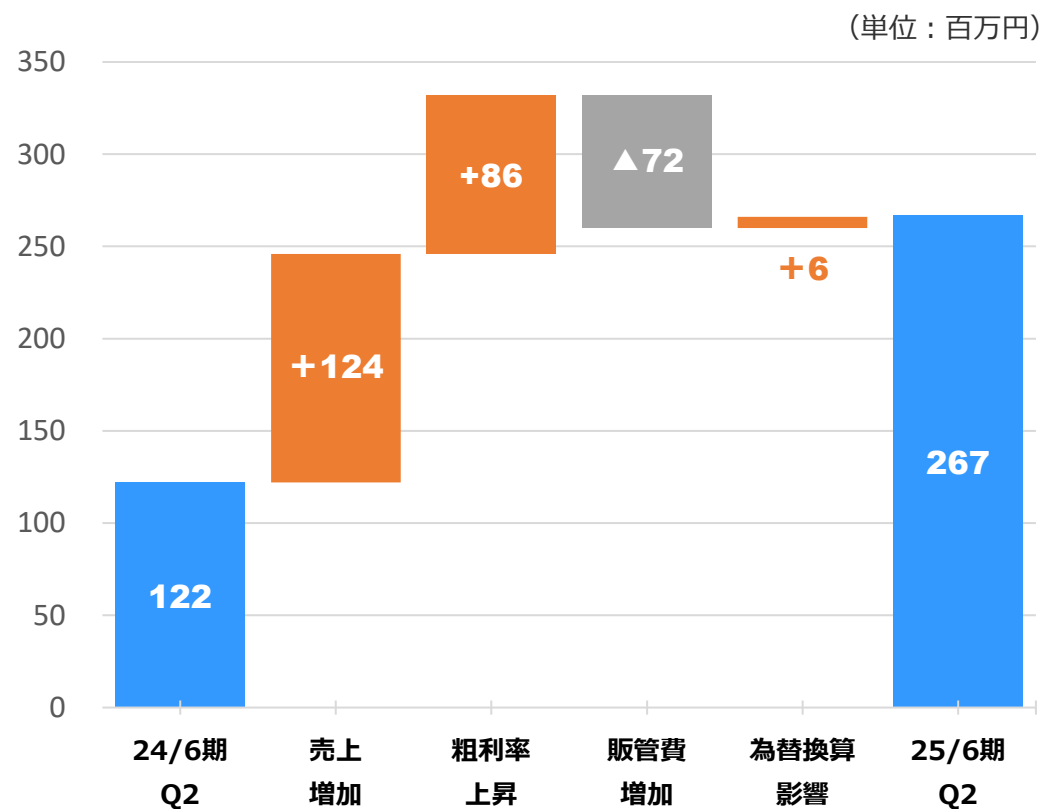
前期比+151

- ハラス原料は大きく供給減となる一方で販売単価は上昇。その他魚種も価格上昇。その結果、利益率は押し上げられている。

要因別セグメント利益増減（海外卸売事業）

売上増加を主要因として、セグメント利益は145百万円増加。

セグメント利益増減



増減補足説明

売上高増加による影響

前期比+124

- アジアの日本食マーケットの拡大傾向は継続しており、これを背景に当事業の売上高も増加。利益額を押し上げる要因となっている。

粗利率上昇による影響

前期比+86

- 前Q2と比較して円安だったことで、現地通貨建ての仕入価格が低下して利益率が改善。

販管費増加による影響

前期比△72

- 前期は、ヒト、モノへの集中投資により販管費率が一時的に上昇したが、当期の販管費率は平準化傾向。
- ただし売上高は大きく増加しており、販管費額としては前年同期比で増加。

貸借対照表 増減サマリー

(単位：百万円)

資産	2024年6月末	2024年12月末	増減
流動資産	29,249	34,657	5,408
現金及び預金	4,835	6,675	1,840
売上債権等	4,371	4,474	103
棚卸資産	16,846	19,810	2,964
その他	3,196	3,696	500
固定資産	9,920	10,139	218
有形固定資産	9,211	9,496	284
無形固定資産	266	253	△12
投資その他の資産	442	389	△52
資産合計	39,170	44,797	5,626

負債	2024年6月末	2024年12月末	増減
流動負債	19,119	24,255	5,136
仕入債務	1,314	1,286	△28
借入金	13,554	18,205	4,651
その他	4,250	4,763	512
固定負債	5,899	5,218	△681
借入金	4,053	3,152	△900
その他	1,845	2,065	219
負債合計	25,019	29,473	4,454
純資産			
純資産合計	14,151	15,323	1,172

- 棚卸資産の増加：養殖事業の仕掛品の増加（海外はQ3、国内はQ4に水揚げ。それまでの間、養殖魚の仕掛が増加）と国内加工の仕入シーズンにより、在庫増加。
- 設備投資の進捗：P.18、19参照

養殖設備の状況（国内・稼働中）

- 当社の成長戦略である国内養殖量の拡大に向けて、養殖キャパシティの増強、特にボトルネックとなっている中間養殖キャパシティの拡大が課題。
- 当期は2022年の大雨災害で被災した中間養殖設備の復旧などにより、中間養殖キャパシティは3.5千トン（当社試算の成魚換算値）へ拡大。
- 海面養殖のキャパシティは1万5千トンほどあるため、キャパシティの問題は当面なし。

中間養殖量のキャパシティ



海面養殖量のキャパシティ

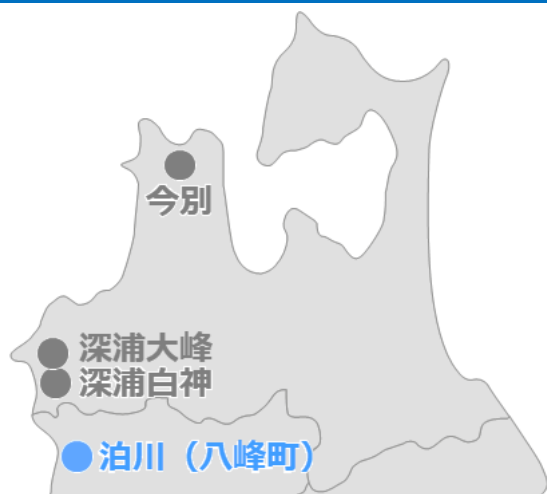


【参考】2024年シーズンの養殖水揚げ量 2,692トン
 * トン数は全て当社試算による成魚換算値（概算）

養殖設備の状況（国内・建設中）

泊川中間養殖場は、現在、建設工事進行中。水揚げ寄与は従来見込みから1期遅れ、2027年6月期になる見込み。

▼ 現在進行中の中間養殖場増設工事（泊川） ▼



	想定中間魚生産量 (ト)	想定成魚生産量 (ト)	水揚げ寄与見込
泊川中間養殖場 (秋田県八峰町)	250	1,050	2027年6月期



泊川中間養殖場建設地（2024年11月撮影）

Ⅱ. 2025年6月期 通期計画



通期業績計画サマリー

- 連結売上高は前期比34億円増の361億円を計画。主な要因は、国内養殖量増による養殖事業売上の増、市場規模拡大を背景にした海外卸売事業売上の増。
- 連結営業利益は前期比6億円増の32億円を計画。上記売上増に伴う増益。

【連結】

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益 (※)	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
2024年6月期実績 (a)	32,665	2,548	2,932	1,968	252.16
2025年6月期計画 (b)	36,119	3,212	2,949	2,093	268.18
増減額 (b-a)	3,453	664	16	134	—
増減率	10.6%	26.1%	0.6%	6.4%	—

※ 2024年6月期の経常利益には、為替差益355百万円（外貨建債権に関する為替差益など）が含まれている

セグメント別

(単位：百万円)	2024/6期 実績 (a)	2025/6期 計画 (b)	(b-a)
売上高	32,665	36,119	3,453
養殖	6,750	8,933	2,183
国内加工	8,279	8,205	△73
海外加工	15,255	15,373	117
海外卸売	8,869	11,132	2,262
調整額	△6,489	△7,526	△1,036
セグメント利益	2,548	3,212	664
養殖	772	1,476	703
国内加工	1,089	1,215	126
海外加工	1,064	852	△212
海外卸売	254	415	161
調整額	△632	△746	△114

株主還元

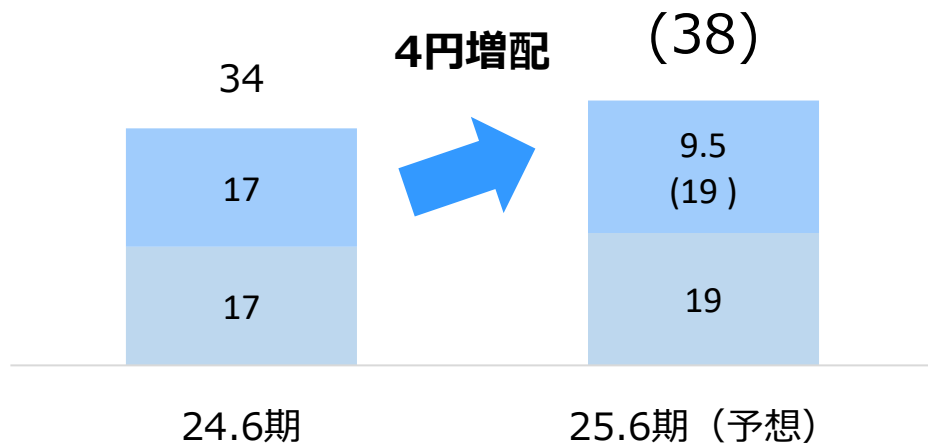
配当

配当方針

株主資本配当率2%以上を目途に継続的・安定的な配当に努める

1株当たり配当金推移：円

■ 第2四半期末 ■ 期末



※ () 内は株式分割前換算額

株主優待制度

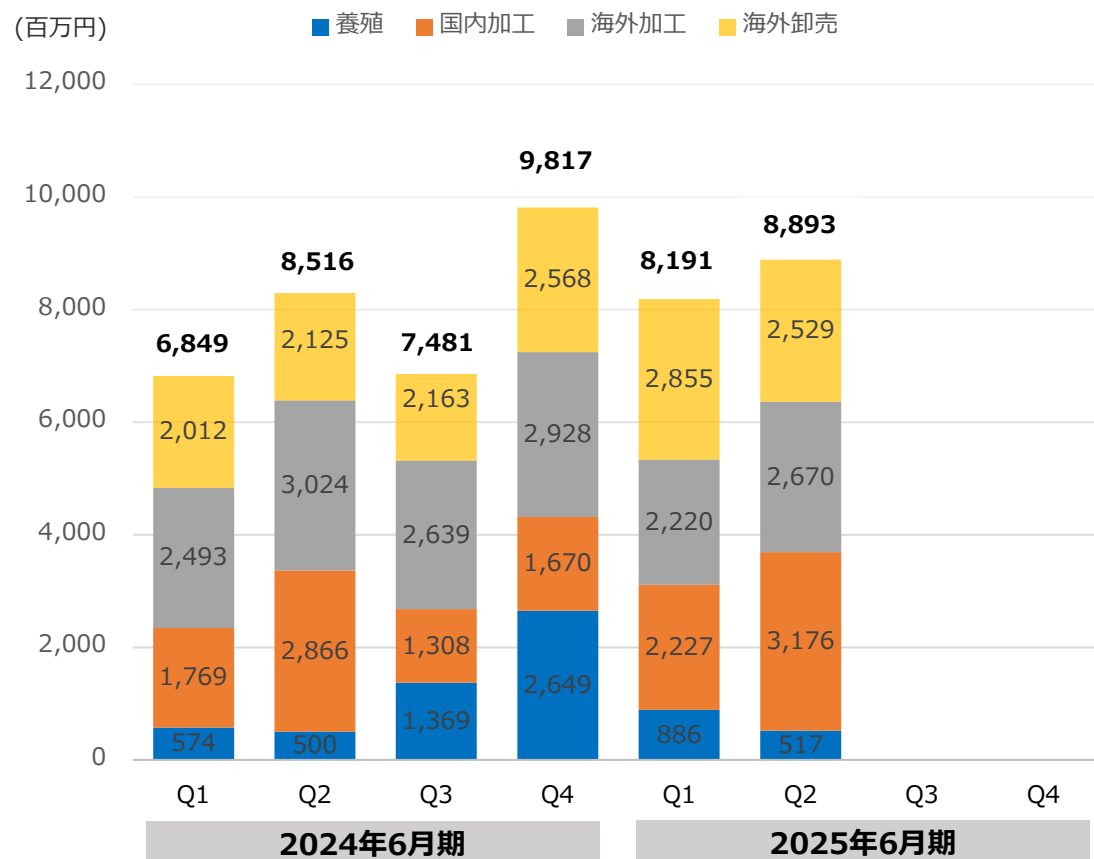
継続する予定 (内容は未定)

Ⅲ. 参考資料



四半期ごとの季節変動について（売上高）

ロ セグメント別 四半期推移（外部顧客への売上高）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

水揚げ時期に売上が集中する傾向があります。水揚げ時期は国内養殖が4～7月（主に第4四半期）、デンマークの養殖が10～12月（第3四半期・決算日差異あり）になります。

○国内加工事業

取扱っている製品（いくら、筋子、数の子）の性格上、年末商戦（第2四半期）に売上が集中、年始はその反動で売上が落ち込むという傾向があります。

○海外加工事業

特に大きな季節要因はありません。

○海外卸売事業

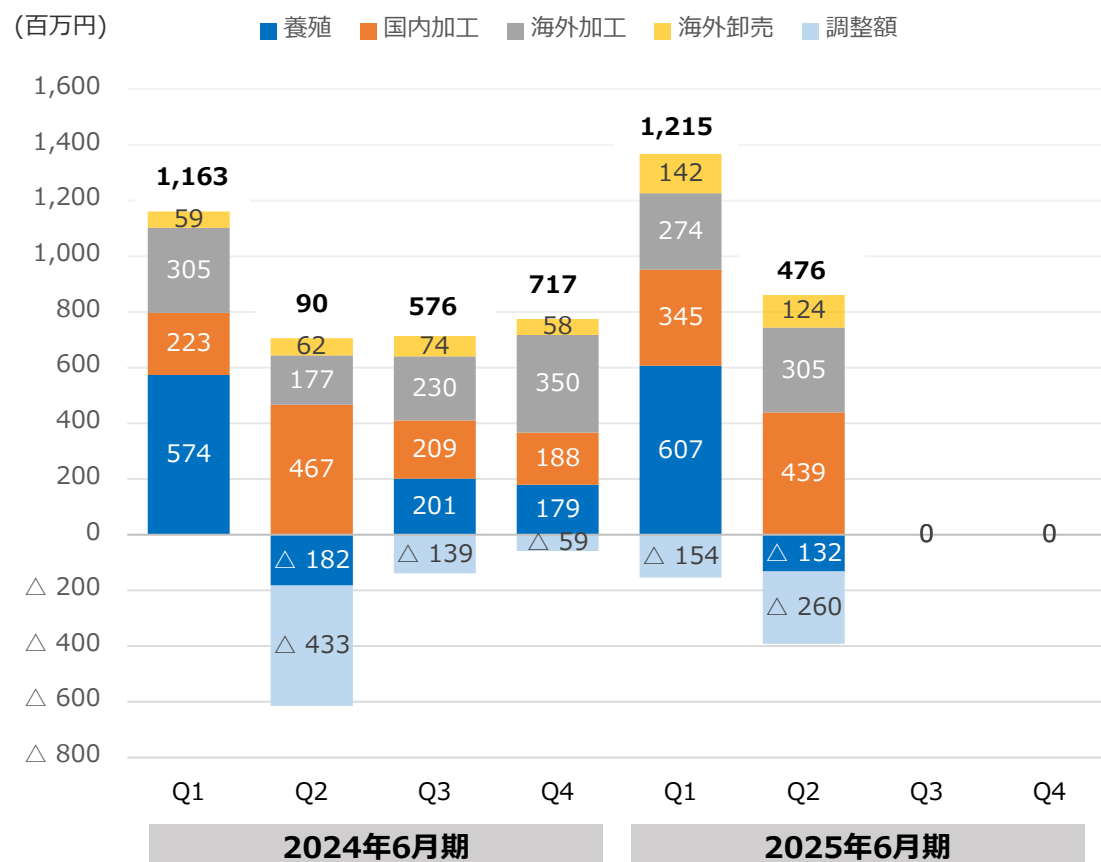
特に大きな季節要因はありません。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（セグメント利益）

□ セグメント別 四半期推移（セグメント利益）



<各セグメントの主な季節要因>

○養殖事業

Q1

国内・海外ともに水揚げ時期ではありませんが、デンマーク子会社（IFRS適用）の年間販売利益の見込額がQ1に一括で計上されます。

Q2

国内・海外ともに水揚げ時期ではないため、販売利益は少なくなる傾向があります。

Q3

デンマーク子会社の水揚げ時期にあたります。デンマーク子会社の販売利益の見積差額（実績値との差）はこの時期に多く計上される傾向があります。

Q4

国内養殖の水揚げ時期にあたります。国内養殖の販売利益はこの時期に多く計上される傾向があります。

○国内加工事業/海外加工事業/海外卸売事業

前頁参照

○調整額

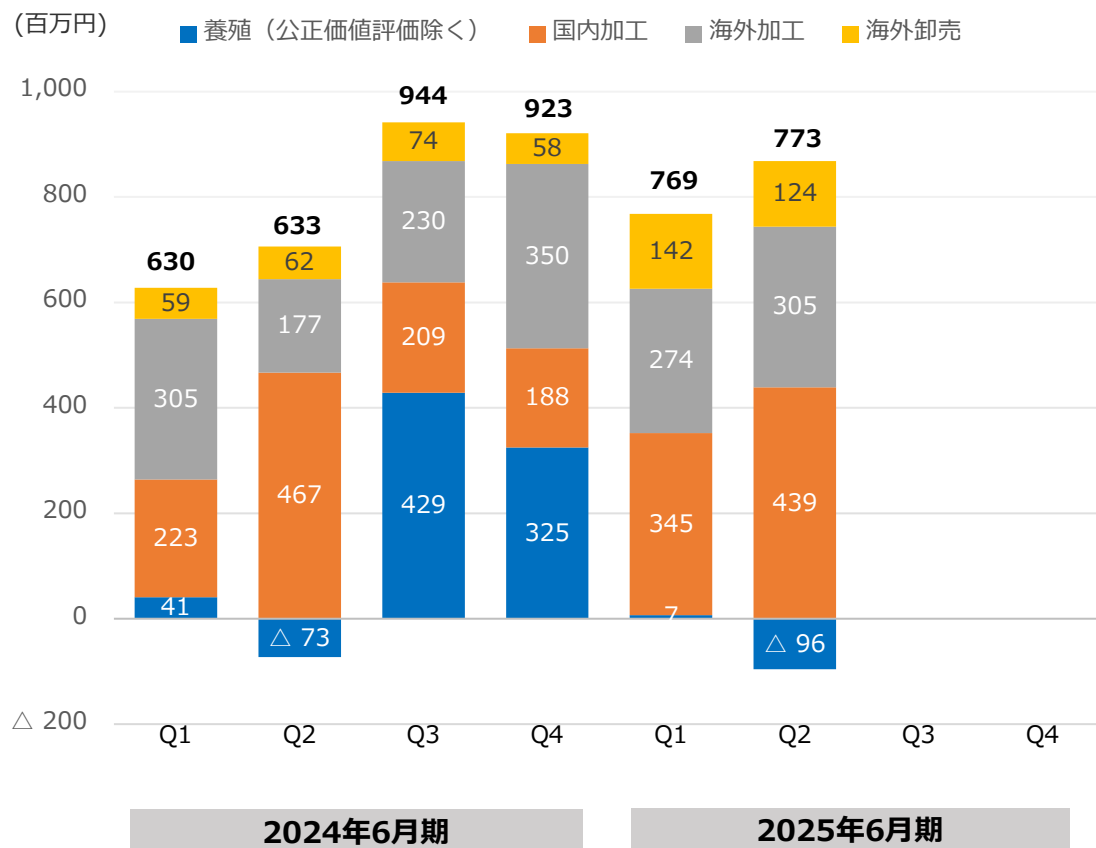
全社費用に加え、グループ内取引によって生じた棚卸資産未実現利益の控除を含みます。これはQ2に多く計上される傾向があります。

(注)

上記は例年における主な季節要因を説明したものです。実際の業績は他の様々な要因によって変動することをご承知おき下さい。

四半期ごとの季節変動について（IAS41号に基づく公正価値評価損益を除いた場合のイメージ）

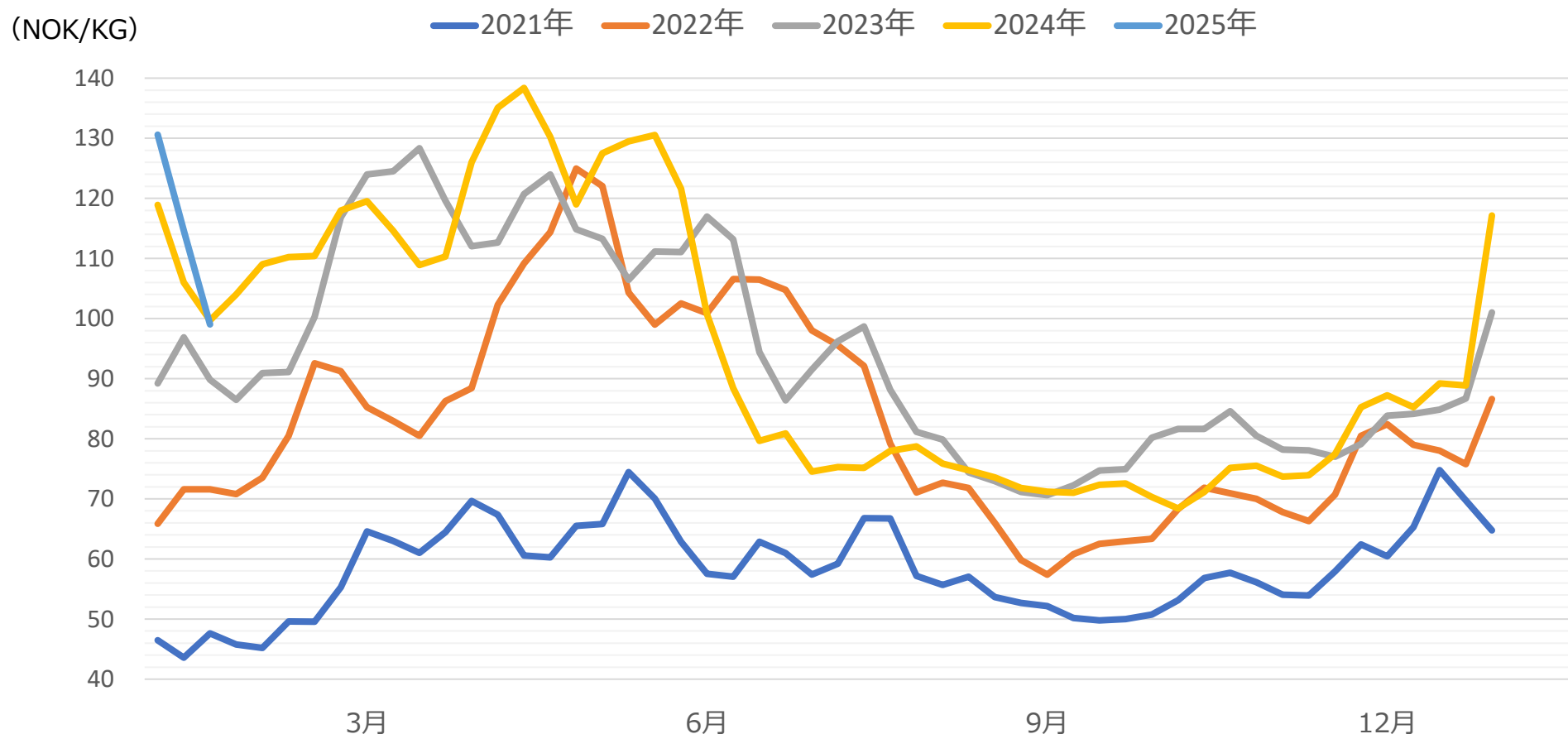
□セグメント別 四半期推移（調整額控除前セグメント利益）



公正価値評価損益の影響を除いた季節変動（日本の会計基準で処理した場合に近似する）は左記のとおりです。

- (注)
- セグメント利益の調整額（全社費用、棚卸資産に含まれる未実現利益の消去、など）を控除する前の数値です。

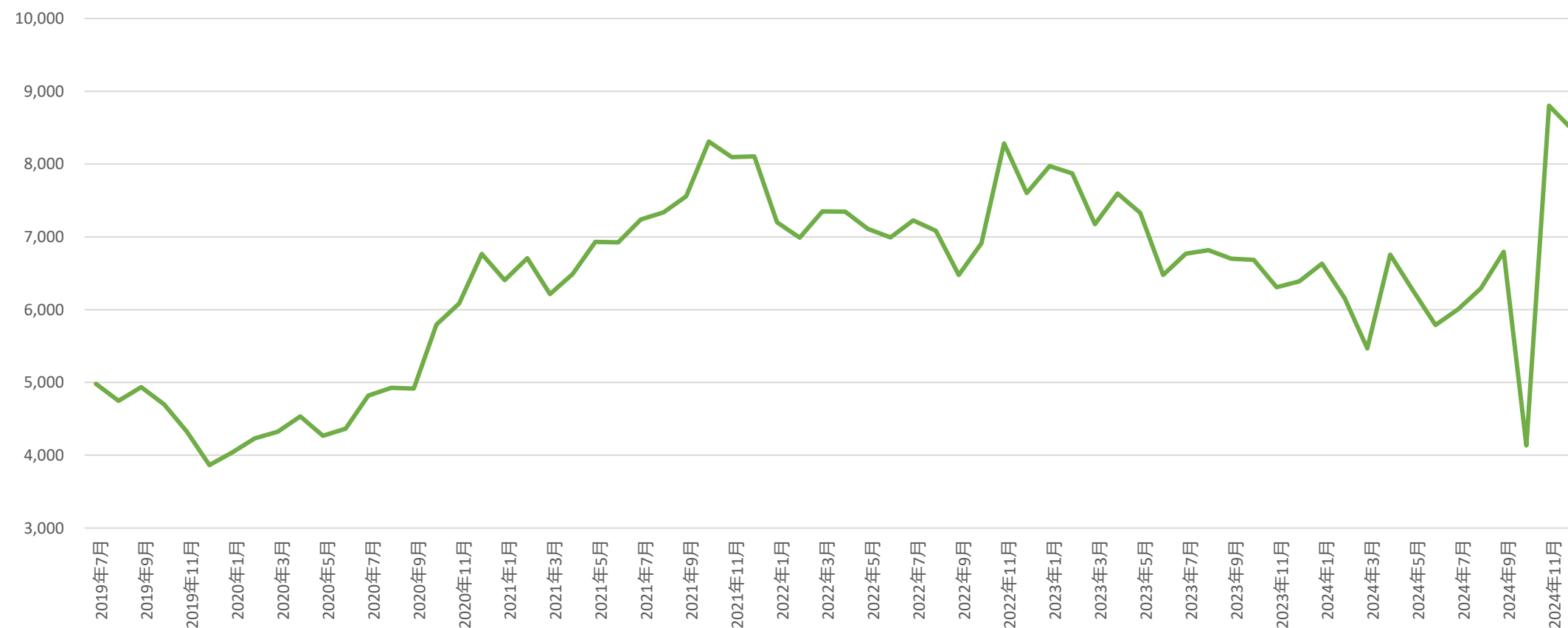
アトランティックサーモンのスポット価格 (Fish Pool Index)



※ 上記グラフは、当社グループが養殖しているサーモントラウトとは異なる魚種であるアトランティックサーモンのスポット価格を表示しています。サーモントラウトにはこのような指標はないため、魚種は異なるものの、当社グループでは便宜的に当指標を予算策定や市場トレンドを測る際の参考指標として利用しています。なお、実際の取引価格は国内需給や輸送コストなど様々な要因に基づいて決定されます。あくまで当指標は一参考指標としてご覧いただく必要がある点にご留意ください。

豊洲市場のいくら平均価格推移

(円/Kg)



出展) 東京都中央卸売市場・市場統計情報

※ 相場のトレンドを概観する目的で掲載しています。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、経済動向、他社との競争状況、商品相場動向など潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化などの様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。



海の恵みを絶やすことなく
世界中の人々に届け続ける。

株式会社 **オカムラ食品工業**



青森サーモン®